

■平林初之輔 評論家。マルクス主義文芸批評を先駆、「政治的価値と芸術的価値」が空前の文学論争となるも、早世した。

ひらばやしはつのすけ

大本教・・・1892＝ 京都府竹野郡深田村字黒部(弥栄町)で、小地主の長男に生まれる。

日清戦争始・1894＝ 2歳：

田中正造直訴1901＝ 9歳：

日露戦争終・1905＝13歳：

韓国併合・・・1910＝18歳：京都師範学校(京都教育大学の前身)に入学。

明治天皇没・1912＝20歳：

大正政変・・・1913＝21歳：教職を嫌って上京し、早稲田大学英文科に入学，

ロシア革命・1917＝25歳：卒業，アテネ＝フランセでフランス語を学ぶ。

本格政党内閣1918＝26歳：_ {やまと新聞社}に入社，文芸時評などを担当するが，

大正11年条約・1919＝27歳：

大暴落・・・1920＝28歳： 争議のために退社。{新潮}に文芸批評を執筆し，{国際通信社}に入社する一方，青野季吉，佐野文夫，市川正一・義雄兄弟らとマルクス主義の文献を研究し，

原敬首相暗殺1921＝29歳：結婚。*彼らと雑誌{無産階級}を発行，マルクス主義文芸批評の先駆者としての位置を用意する。

水平社結成・1922＝30歳：* {種蒔く人}同人となり，評論「第四階級の文学」などを発表，労働者階級の文学を人類文化として位置づけ，大正期の民衆思想からの飛躍を理論的に示した。非合法に結成された日本共産党に入党，

関東大震災・1923＝31歳： 評論集「無産階級の文化」を出版，また早稲田大学仏蘭西文学科講師となるが，共産党幹部の検挙があり，<関東大震災>で{種蒔く人}が廃刊に追い込まれるなどしたため，実践運動に距離をおくようになる。

護憲三派圧勝1924＝32歳： 創刊された{文芸戦線}の同人となる一方，社会思想史研究にも力を入れ，ルソーの「エミール」・ダンテの「新生」などを翻訳刊行する。

金融恐慌・・・1927＝35歳： _ {文芸戦線}同人をやめる。

共産党事件・1928＝36歳：

世界恐慌・・・1929＝37歳：* {新潮}に，のちに“芸術的価値論争”とよばれる論争のきっかけとなった評論「政治的価値と芸術的価値」を発表，プロレタリア文学理論の問題点を明快に示し，きわめて大きな反響をよんだ。プロレタリア文学運動の理論家としては珍しく映画などの新しいメディアや，大衆文学・探偵小説にも理解を示し，探偵小説はみずから創作もしたが，

満州事変・・・1931＝39歳： _ 出血性膵臓炎によりフランスで客死した。